

受けよう！がん検診



～「がん」は早期発見で 9割が治ります～

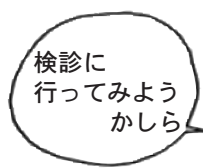
昨今、芸能人のがん闘病の様子がマスコミでも数々取り上げられています。が、「がん」は依然として死亡率の第一位になっています。

がんによる死亡者は近年、日本では増えていますが、米国では減っています。欧州を含めた先進7か国で、右肩上がりに増えているのは日本だけです。その原因の一つに、がん検診の受診率の低さがあります。

例えば、乳がん検診の受診率は米国72.5%、韓国33.6%、日本20.3%。子宮頸がん検診では米国83.5%、韓国40.6%、日本21.3%と、隣国の韓国にも及ばないのが現実です。

がんは、早期発見すれば9割が治ると言われています。ただ、症状が出た段階ですでにがんは進行しているの、がんは症状が出ない、小さいうちに見つけなければなりません。

直径1ミリのがんも早期がんですが、発見できるのは1センチほどになってからです。例えば、乳がんは、がん細胞1個から1センチになるのに15年かかりますが、1センチから2センチになるには1年半で、がんは「センチ」になってから進行が速くなります。「センチ」になってからの1年半が早期発



見にとつて重要な時期です。つまり、定期的な検診がとても大切なのです。がん検診には、地方自治体による「住民検診」と、企業や団体が従業員を対象にする「職域検診」があります。国はこうした検診で受診率を50%に高め、がんによる死亡率を20%減らす目標を掲げています。

がんを早期に発見するためにも、がん検診を受診しましょう。

肺がん検診体験談



友田 洋（仮名）
45歳 広告営業

「年々つらくなる息切れと肺がんの怖さが気になって…」

20歳からタバコを吸っているの、喫煙歴はもう25年になります。最近、駅の階段を上るたびに息切れがするようになって、一度肺の検査を受けたほうがよいのかなと考えていました。曾祖母が肺がんで亡くなったこともあり、家系的にがんも心配されたからです。

とはいえ、検診を受けるためにわざわざ時間をつくるのは面倒だし、とりあえず日常生活に支障はないので、ずるずる先延ばしにしていたのですが、今回、会社の同僚から、肺がんは早期発見が非常に大事で、もし見つかった

としても早期発見で治癒も可能な病気だからとの強い勧めもあり、市の肺がん検診を受けることを決めました。何より、肺がん検診は検査時間も短く、簡単にそして気軽に受けられるということも手伝って、私の重い腰を上げるきっかけともなりました。現在、がんの中でも肺がんがトップというくらい肺がんで亡くなる方が多いと聞きます。

「将来のために、健康を維持していくには受けてみよう！」と、仕事の休み時間常に予約を入れて受診しました。



「定期的に受けながらタバコと上手につき合いたい」

検査結果は、1か月くらいで送られてきて「異常なし」だったので、ひとまず安心していきます。

こんなに気軽に受けられ安心するなら、今後も定期的に検査を受けながら自分の健康状態をしっかり把握したうえで、タバコと上手につき合っていけたらなと思います。やはり40歳以降はさまざまな病気が心配になってきますし、特に肺がんは早期発見こそ唯一の治療手段だと思います。胃や大腸の内視鏡検査と違って、本当に簡単かつス

ピーディーな検査なので、同世代の愛煙家の友達にもぜひ勧めたいですね。

子宮頸がん検診体験談



水野千恵（仮名）
32歳 OL

「不正出血で受診したところ、すぐに子宮がん検査へ」

20代半ばを過ぎた頃から生理痛がひどく、生理と生理の間に出血（いわゆる不正出血）が続くのが悩みでした。婦人科系のクリニックで診てもらわなくてはいけなかったが、仕事が忙しいのを言い訳にすると先延ばしにしていました。今回は31歳で結婚したのを機に、相変わらず不正出血が続いていることから、また将来的に出産を考えていることから、近所のレディースクリニックを訪ねることにしました。



出産経験、妊娠希望の有無などを記入し、その後は待合室で名前が呼ばれるのを待ちます。大変混みあっていたが、15分ほど待ったところで、看護師さんに名前を呼ばれました。

診察室に入ると、先生にいつ頃から不正出血が気になりはじめたか、出血が続く日数、その他自覚症状などを聞かれました。そのときまで、子宮がん検診を受けることはまったく頭にありませんでしたが、30歳を過ぎると、不正出血の原因の一つとして子宮がんの罹患率が高まるということを聞かされ、とりあえず若い人にも起こりやすい子宮頸がんの検査を行うことになりました。

「女性として自分の体を気遣うよいきっかけとなった」

2週間後、検査結果を聞きに行きました。子宮頸がんの疑いはないことがわかりました。膣の細菌感染についても、外部からの感染菌は認められませんでした。今回の検査で不正出血の確かな原因はわかりませんでした。大きな病気が潜んでいないということでも安心しました。今後は基礎体温をつけ、1か月後にその基礎体温グラフをもとに、ホルモンの異常がないかなどを判断してもらいながら、不正出血の原因を明らかにしていきます。

今回、たまたま結婚がきっかけとなってレディースクリニックに伺った

となりましたが、こうした転機がなければ、きつともっと先延ばしにし、漠然とした不安を抱えながら毎日を過ごしていたと思います。同年代の友達にも私のように婦人科系の悩みを抱えている女性が多いですが、みんな「検査を受けるまでは…」と二の足を踏んでいるケースがほとんどです。私もそうでしたが、受診を機に基礎体温をつけ始めたこともあり、今まで以上に自分の体を気遣う大変よいきっかけになりました。働いている女性も多いので、なかなか時間をつくるのは難しいとは思いますが、大切な友達が子宮がんの手遅れということにならないためにも、私は強く周囲に勧めるようにしています。

参考文献「株日本医療企画・人間ドック体験談」

小郡市では、特定健康診査をはじめ、肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、子宮がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診を行っています。

詳細については、小郡市の広報紙やホームページ（<http://www.city.yogorifukuoka.jp>）等より確認ください。

「問い合わせ先」

健康課 ☎ 72・6666

平成23年度就学児童健康診断

- ▶対象 平成16年4月2日～平成17年4月1日の間に生まれた未就学児
- ▶時間 午後1時30分～2時30分
- ※受付は、午後2時までに済ませてください。また、案内のはがきを10月上旬に郵送します。
- ※駐車場に限りがあるため、車での来診はなるべくご遠慮ください。
- ※お子様の小学校就学に際して、ご相談（特別支援等）がありましたら、事前にご連絡ください。
- ▶問い合わせ先
教務課教務係 ☎ 72-2111（内線512・514）

期 日	実 施 場 所
10月15日(金)	御原校区公民館
10月19日(火)	味坂校区公民館
10月20日(水)	のぞみが丘小学校
10月26日(火)	小郡小学校
10月27日(水)	緑の里くろつち会館 (立石校区公民館)
10月29日(金)	東野小学校
11月9日(火)	大原小学校
11月10日(水)	ふれあい館三国 (三国校区公民館)